かんたん

おちひめ

でんせつ

簡単な阿池姫伝説

いま

今から約1000年ほど前の話だ。

きゅうかわらむら

旧川原村にたかみつという、その地で強い力をもった男がいた。たかみつには、おちひめという美しい娘がいた。

このおちひめは、おさない時に山で遊ん

くす

だいす

でいると大きな楠の木を見つけ、その木が大好きになった。それから何年かたって、たかみつはそ

くす

の楠の木を使って船を作った。しかし、

かんせい

完成した船を動かそうとしたところピクリとも動かなくなってしまった。みんながこまっていると

うらな し

おちひめ

占い師が、「阿池姫を船をに乗せてみれば動

ため

ひめ

くでしょう。」といった。試しに姫を乗せてみると船は、一人でに動き出し、飛ぶように走りくだ

ぼうふうう

ふる

ると見る間に暴風雨が起こり山は震え、大地はさ

しず

けて池ができ、船は姫を乗せたまま沈んでしまった。それいらい、池ではおかしなことが起こり続け、村人たちをなやました。

たかみつは深く悲しみ、熊野というところからお坊さんを呼んだ。そしてお坊さんの助言に聞き

さいだん きょう とな

池のほとりに祭壇を作りお経を唱えるとその夜、

つの するど も ほのお ま

5つの角を持ち、目は鋭く、燃える炎のような真っ

か した りゅう あらわ

赤な舌を出した15mほどもある、大きな龍が現れ

りゅう すがた

た。龍はしぶきをあげて池の中に姿を消したがすぐに女の姿に代わり、こう言った。

ほこら わたし まつ

「どうかこの池のほとりに祠を作り私を祀ってく

やす おさ

ださい。そうすれば、村が安らかに収まるように

まも

お守りします。」

言い終わると女は、姿を消してしまった。その女の姿は紛れもなくおちひめだったという。なげき悲しむたかみつだったが、女の言う通りに、

お坊さんは、へびの姿をかたどった守り神を作り池の東側に宮祠（みやほこら）をたて置いた。

げんざい

ごぜんじんじゃ

それが、現在の池の御前神社である。

以上が川原大池に伝わる阿池姫伝説です。

終・わ・り

作成者 長崎市立川原小学校 3・4年

参考文献 長崎の民話 吉松祐一

この文章は、川原大池の周辺にある阿池姫伝説の説明板を小学生でもわかるような言葉でやさしく説明したものです。